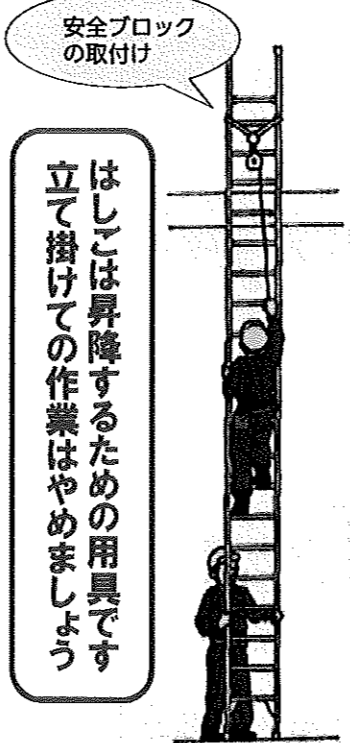
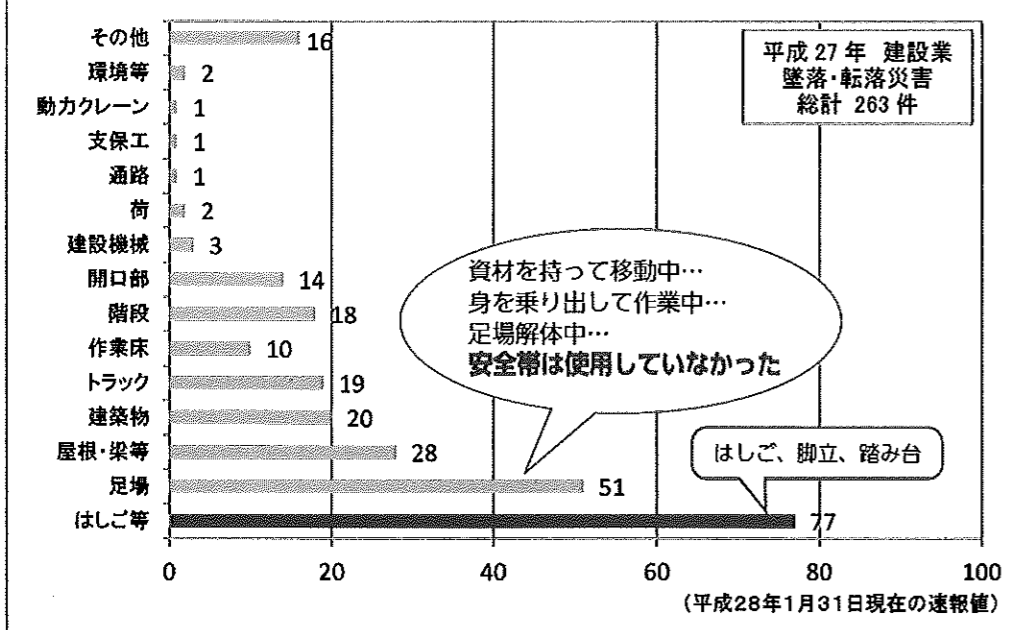


# はしご・脚立等からの墜落防止対策

墜落場所(起因物)別発生状況(建設業・大阪)



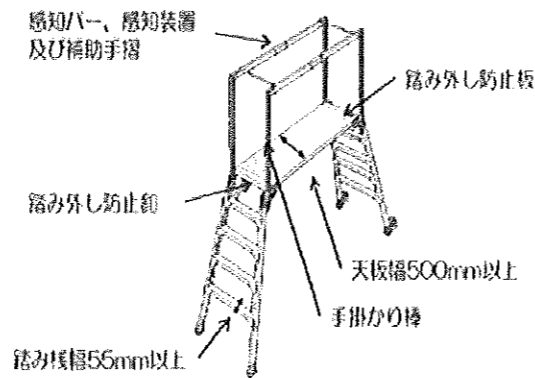
# 各社の墜落災害防止取組事例

## 可搬式作業台・脚立作業の墜落防止

### A社の事例【可搬式作業台の使用基準】

- ① 天板幅が500mm以上あること。
- ② 踏み木の幅が55mm以上あること。
- ③ 作業台の天板は、昇降口に踏み外し防止釘があること。
- ④ 作業床高さ750mm以上となる機種は、手掛かり棒が4本設置されていること。
- ⑤ 作業床高さ1,150mm以上となる機種は、感知バー、感知装置又は補助すりりが設置されていること。

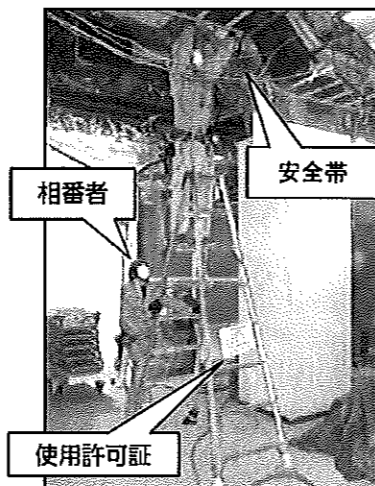
※ 感知バー、感知装置又は補助すりりは、作業員の身体に触れることで、墜落・転落の危険を伝えることにより、災害を防止する施設であり、安全帯を掛ける施設としては使用できません。



### B社の事例【脚立は許可制】

- ① 2m以上の長尺脚立は、原則使用禁止とする。
- ② 2m以上の高所危険作業で安全帯が使用できない場合は、使用禁止とする。
- ③ やむを得ず使用する場合は、足場が設置できない狭小部にのみ限定し、届出制とする。

⇒作業所長(統括安全衛生責任者)がその都度、使用の可否を判断し、承認する。



# いのちつなごう 命綱GO活動

いのちつなごう スローガン  
いのちつなごう たいせつ いのち  
～ 命綱使ってつなGO大切な命～



## 命綱GO活動のポイント

- 1 安全帯着用確認  
建設現場へ入場する際に、安全帯を着用しているか確認しましょう。
- 2 安全帯使用確認  
適宜作業場所を巡視し使用状況を確認しましょう。
- 3 安全帯の点検  
安全帯の点検状況を確認し適正な安全帯を使用するよう指導しましょう。
- 4 危険体感教育の実施  
危険を体感させるようなビジュアル教育を実施しましょう。
- 5 安全帯取付設備(親綱)の設置  
規格を具備した親綱を適正に設置しましょう。
- 6 作業手順の見直し  
安全帯を確実に使用するための作業手順書を作成し周知しましょう。

# 1 安全帯の着用と使用確認

「必ず安全帯を着用する」、「必ず安全帯を使用する」ことを定めたルールを作りましょう。

何が何でも、安全帯100%使用

## (1) 元方事業者

- ① 適宜作業場所を巡視し、作業者の安全帯の使用状況を監視しましょう。
- ② 安全衛生責任者、足場組立て等作業主任者、職長等に対し、配下の作業員の安全帯の使用状況を監視するよう指示しましょう。

## (2) 安全衛生責任者、足場の組立て等作業主任者、職長等

- ① 配下の労働者について、安全帯の使用状況を監視し、使用していない場合は、直ちに作業をSTOPさせ、使用するまで作業はさせないルール作りをしましょう。
- ② 現場内の墜落危険箇所を周知し、確実に安全帯を使用させましょう。



高所作業では安全帯ヨシ!

# 2 安全帯の点検

作業に合った安全帯を選定し、安全帯の規格（平成14年2月25日 厚生労働省告示第38号）に基づく構造要件を具備した安全帯を使用しているか点検しましょう。

ある現場での点検調査によると、4人に1人が問題のある安全帯を使用している例がありました。

ベルト	腐食・切り切れ・切り傷・脱色・変質 34mm (ベルト)・1mm (ストラップ)以上の厚さ・切り傷が深くなるもの 	縫製のほつれ 縫製が1箇所以上劣化しているもの 
ロープ	切り傷 1m以内で7ヶ所以上切れているもの 	変質 外層ヤーン及びコアヤーン以上劣化しているもの 
	キック・形崩れ キックしているもの、また7ヶ所以上形崩れのあるもの 	腐蝕・塗料の付着 塗料が付着して硬化しているもの、また塗料が付着しているもの 
	焼痕・溶接 7ヶ所以上溶接があるもの 	芯づまみみの抜け まつみみの抜けが1箇所以上見られるもの 
バックル	変形 変形し、持ち寄り具の要しているもの 	腐蝕・傷 1cm以上の腐蝕・傷があるもの 
環類	変形 変形し、持ち寄り具の要しているもの 	腐蝕・傷 1cm以上の腐蝕・傷があるもの 
フック	変形 変形し、持ち寄り具の要しているもの 	腐蝕・傷 1cm以上の腐蝕・傷があるもの、また外周に突出1mm以上の傷があるもの 
伸縮調節器	変形 変形し、持ち寄り具の要しているもの 	腐蝕・傷 1cm以上の腐蝕・傷があるもの 
巻取り器	損傷不良 ストラップの巻き込み防止ができていないもの 	腐蝕・傷 ベルト通し部が破損しているもの 

あなたが使用している安全帯はだいじょうぶか？

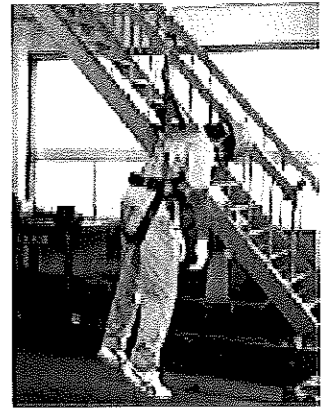
安全帯廃棄基準 (例)

足場の組立て等作業主任者は、安全帯の機能を点検し不良品を取り除くことが法令で義務付けられています

# 3 危険体感教育・訓練の実施

現場の中にある様々な危険を実際の設備を使って具体的に経験・体験することは、「見て、聞いて、触れて、感じる」という人間の五感をとおして危険に対する感受性を向上させる効果があります。

安全帯装着ぶら下がり体感



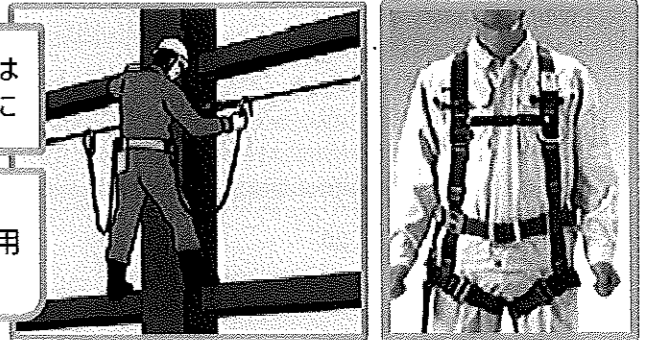
# 4 安全帯取付設備の設置

- (1) 安全帯を使用する場合は、事前に適切な安全帯取付設備を設置しましょう。
- (2) 足場の最上層で組立て作業を行う際は、事前に、安全帯取付設備を設置しましょう。

安全帯を使用していたが、掛け替え時に墜落

足場の組立て等の作業時は【二丁掛け安全帯】を基本に

墜落時の衝撃緩和のため【ハーネス型安全帯】の採用次回買替え時には必ず!



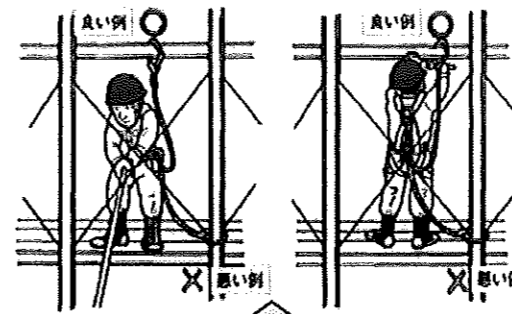
昨年もこんな災害が

- ◆ 単管一側足場上を移動中、バランスを崩し墜落
- ◆ 単管一側足場上で躯体の解体中、6m墜落

水平親綱を設置しましょう

# 5 作業手順に基づく作業の徹底

安全帯の使用に係る具体的な「作業手順」を定め、労働者に周知するとともに、「作業手順」に基づく安全な作業を徹底しましょう。



安全帯のフックを掛ける高さもわからずに作業しているヨ!

昨年もこんな災害が

つり足場の組立て作業中、作業床上に足場部材を荷揚げし、間配りしようと作業員が一か所集まったため許容荷重を超え、つりチェーンが破断し、つり足場が崩壊して9名が墜落した。→ 作業手順を遵守しなかった。

フックの位置		衝撃荷重値
D環より上方1.0mに		【安全帯の規格】値8.0kN
D環の位置		【安全帯の規格】値8.0kN
D環より下方1.0mに		【安全帯の規格】値8.0kN